

## 経膣プローブの取扱いに関する注意

公益社団法人 日本超音波医学会  
機器及び安全に関する委員会

近年、海外では経膣プローブに HPV（ヒトパピローマウイルス）が付着していることがあるため、プローブの滅菌が推奨され、それに関する機器が市販されています。本学会経膣プローブの消毒に関する小委員会、研究開発班の研究結果でも、同様の付着率であることが報告されております。今後、大規模研究が検討されていますが、現段階として、プローブの取扱いに関し以下の通り推奨いたします。

### 記

- ① プローブカバーを装着する前の経膣プローブ本体には HPV が付着している可能性を常に念頭に置く。
- ② プローブカバー装着して患者に使用する場合、HPV 接触リスクは高くないが、検査中にカバーが破損した場合は、プローブ本体を流水洗浄した上で再度カバーを装着し使用する等、取扱いに注意する。
- ③ 新しいプローブカバー装着時には、医療スタッフは手袋を交換した後にプローブカバーを装着する。

参考文献：Kuwata T, et al. Incidence of human papillomavirus contamination of transvaginal probe in Japan and possible contamination prevention strategy., J Med Ultrasonics. 43(4), pp505-508, 2016

以上